

豊橋市にAEDなど寄贈

豊橋ハートセンター 鈴木院長が市長に使い方指導

医療法人澄心会・豊橋ハートセンター（鈴木孝彦院長）は20日、豊橋市役所を訪れ、最新鋭の医療機器である自動体外式除細動器（AED）13器などを寄贈した。鈴木院長は「医者よりも優秀。倒れて（心臓が止まって）1分以内ならば90%の確率で助かる」と効能を説明し、早川市長に使い方などを直接指導した。市役所に2器設置し、万一に備えた。

初期治療の強い味方 救命の向上を図る

豊橋ハートセンターは、循環器医療専門施設として24時間体制で診療している。日ごろから初期治療の重要性を痛感し、豊

橋市に対し自動体外式除細動器の設置を進行してきたが、今年度予算化されず見送られたため、「それならば寄付しよう」と

（鈴木院長）と30器を用意した。

病院前救護を充実させることで、救命の向上を図ろうという狙い。

そうしたところ、他市からも「ぜひほしい」といった要望が寄せられ、



早川市長に除細動器（AED）を説明する鈴木院長

豊橋はじめ豊川、蒲郡、新城、田原の5市と渥美町に分割した。

同器は市役所では、東館1階ロビーと西館5階に設け、ほか消防本部などに設置した。医療機器であっても、一般市民が簡単に扱える。「一般市民が少しでも早く応急処置してほしい」と鈴木院長。

たな指示があったり、必要な場合、電気ショックを与えて初期治療をする。その間に119番通報する。

鈴木院長は「1分以内ならば90%以上、3分以内であれば50%以上の確率で助かる（蘇生をせよ）」。やり方は簡単だから、一刻も早くやるのが大切だ」と強調する。愛知県では260器余を購入し、東三河事務所や県立高校に設置している。

機器の入った箱（バッグ）を開け、電源スイッチを入れると、アナウンスが流れ、その指示に従ってコードでつながったパッド2枚を取り出し、あおむけにした患者の胸を開き、右肩（心臓右）と左腹（心臓下）の素肌に張り付ける。その上でコードのコネクターを指示された機器の箇所（ランプ点灯）にセットすると、自動的にコンピューターが病状の解析を始め、新